

## 平成 25 年度文学研究科共同研究経費申請書

下記の通り文学研究科共同研究経費を申請します。

<b>研究代表者 (申請者)氏名</b>	桑木野幸司	<b>専門分野・ コース名</b>	アートメディア 論・西洋美術史	<b>職名</b>	准教授
<b>研究課題名</b>	西欧近代における旅と風景のディスクール				
<b>研究目的</b>					
〔研究の目的、その意義と予想される成果、新規科研費獲得に向けた準備状況などを記入してください。昨年度科研を申請して不採択になった場合は、研究継続・再申請準備状況も記入してください。〕					
<b>※研究目的</b>					
<p>本共同研究は、昨年度の共同研究「ヨーロッパ文化としてのグランドツアー」（服部・吉田・山上・桑木野）の成果を発展的に継承し、「旅」についての言説分析をさらに深めることを目的とする。ヨーロッパでは 17 世紀から 19 世紀はじめまで、グランドツアーとよばれる修養旅行が行われていた。昨年度の共同研究では、英文学・独文学・仏文学・イタリア美術史の各分野から、大陸旅行をめぐるさまざまなトピックの分析が行われた。そこで浮かび上がった問題点は、当時の大陸旅行には多彩な形態や目的があり、必ずしも「グランドツアー」という語のみでは覆いきれない多様な側面が見られるということであった。</p> <p>そこで本共同研究では対象を「旅」および「風景」とし、より広範な視点からのアプローチをこころみる。西欧近代（16C~19C）のヨーロッパ人たちは、「旅」すなわち未知の自然や異文化との遭遇をどのように言語化し、また異国の地で目にした「風景」あるいはカルチュラル・ランドスケープ（文化的景観）をどのようにテキストに描写していったのだろうか。この点を解明すべく、英・独・仏・伊の文学者や哲学者のテキスト（サド・ゲーテ・デカルト他）、あるいは視覚芸術や都市・庭園空間を分析し、領域横断的な近代景観論の視座を得ることを最終目標とする。近代の発展過程の中で、ヨーロッパ人が異文化をどのように理解し、またどのような態度で風景と接してきたのかを、学際的な視点から明らかにすることで、21 世紀がかかえている国際紛争や環境問題にもアクチュアルな提案が可能になるものと期待される。</p>					
<b>※予想される成果と意義</b>					
<p>旅や風景をめぐっては、近年バーバラ・スタフォード『実体への旅』やサイモン・シャーマ『風景と記憶』など、記憶論や景観工学、ピクチャレスク論も取り込んだ斬新な研究が展開しつつある。しかしながら 90 年代以降のジェンダーおよびナショナリズム研究や、新しい学問領域であるヨーロッパ民族学の成果の蓄積は、十分に反映されているとはいえない。また、文学と美術の両方に応分の目配りができている研究は、まだまだ数が少ないといえる。本研究ではこうした研究動向をふまえたうえで、各国文学の専門家と、美術史や表象文化論の研究者が緊密な連携を行うことで、世界レベルに照らしてみても大変独創的な「旅・風景」研究の展開が期待できる。</p>					
<b>※新規科研費獲得に向けた状況</b>					
<p>本共同研究申請者である本研究科のメンバーは現在のところ全員科研費を獲得しており、個人研究を行っている。特に桑木野の「若手 A」は、昨年度の共同研究の成果を積極的に活用したものである。今後も引き続き、メンバーの科研費の新規応募時に本研究を役立てるとともに、将来、複数の大学にまたがるヨーロッパ文化史に関する大型科研費へ応募するための準備として、本共同研究がもたらす人的交流や研究成果を有効に活用してゆきたい。</p>					

## 研究計画・方法

〔研究計画・方法を具体的かつ詳細に記述してください。また、研究経費（次ページの支出計画欄に記載）の必要性・妥当性を明確にしてください。〕

### ※研究計画・方法

グラントツアーに代表される大陸旅行は、ヨーロッパ各国を縦断する旅であった。それゆえ旅のディスクールの研究には、ヨーロッパ全体を視野に入れる研究体制が必然的に要求される。本研究科には、イギリス、フランス、ドイツの 17、18 世紀の文化や文学を専門とする服部、山上、吉田がいる。また美術史の分野には、16 世紀から 18 世紀までのイタリアの建築・庭園・都市史を専門とする桑木野がおり、初期近代から 18 世紀までの西ヨーロッパ全体の文化現象をカバーできる、他の大学には見られない大変充実した研究体制がある。加えて、研究の質をさらに高め、また将来の大型化科研費獲得の布石とするべく、この分野で優れた業績を上げている、東京および北海道の研究者にも参加を要請している。またヨーロッパを研究対象としている本学の大学院生にも積極的に参加を呼び掛けることにより、教育的な効果もねらっている。

具体的には、仏文の山上がモンテーニュとデカルトの著作の読解を通じて、フランス 16・17 世紀において、旅先での見聞や人々との交流による判断の形成が、書物を通じた教養とどのような関係にあったかを考察する。またフランス表象文化の小澤は、ルドゥの建築論における『ユートピア旅行記』としての性質を分析する。また、ドイツ文学・文化史の領域においては、吉田・北原が、ドイツ語の旅行記述に見られる文化的差異の表象について研究を進める。服部が担当する英文学においても同様に、17~18 世紀の英語による旅行記およびユートピア文学に見られる、文化的差異の表象の解析に取り組む。一方桑木野は、イタリア美術史の観点から、ヨーロッパの旅行者たちが記述を残している庭園や建築作品について考察し、テキストと視覚芸術との通底の問題に切り込む。

9 月下旬に、第一回の打ち合わせの機会を持つ。ここでは研究代表者である桑木野が本研究会の主旨と、「旅・風景」研究の現状について報告を行う。また 11 月と 12 月に開催予定のワークショップのスケジュールの調整を行い、研究分担者には各自の研究テーマについて簡単な予告をしてもらい、ディスカッションを行う。

11 月中旬（大阪）・3 月初旬（北海道）にワークショップ（日程は調整中）を開催し、参加者全員が口頭発表を行う。

なお共同研究の成果は、平成25年度中に、研究者各人が学術雑誌に論文の形で発表することになる。そのため以下の検討会を開催する。

平成 26 年 3 月中旬に、本共同研究を総括するための検討会を大阪で開催し、研究成果の公開についての方法およびスケジュールについて確認し、今後の共同研究の継続方法について検討する。

### ※研究経費の必要性

以上の研究計画を実現するために、大阪・東京・北海道間の交通費および出張先での宿泊費計 11 件（約 365 千円）と、さらに共同研究分担者各人の研究主題に即した参考図書の購入代金として、少なくとも 150 千円（研究者一人当たり 25 千円）は必要となる。（なお、この参考図書購入代金の一部は文献複写、資料の郵送費、印刷製本費に転用される可能性がある）。

## 研究組織

氏名	年齢	所属機関・部局・職名	専門分野
桑木野幸司	*	文学研究科准教授	イタリア建築・美術史
小澤京子	*	東京大学グローバル COE「共生のための国際哲学」教育センター特任研究員・埼玉大学非常勤講師	フランス表象文化・18C 美術史
北原博	*	北海学園大学法学部教授	ドイツ文学・文化史
服部典之	*	文学研究科教授	英文学
山上浩嗣	*	文学研究科准教授	フランス文学
吉田耕太郎	*	文学研究科准教授	ドイツ文学

※1行目に研究代表者（申請者）を記入してください。記入欄が足りない場合は追加してください。

※本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

## 研究スケジュール

時期	内容
9月下旬	共同研究の打ち合わせ（大阪）
11月中旬	ワークショップ I.（大阪）
平成 26 年 3月初旬	ワークショップ II.（北海道）
平成 26 年 3月中旬	本共同研究の総括検討会（大阪）

※記入欄の数・幅が足りない場合は適宜追加・拡大してください。

研究経費の支出計画 (単位：千円)

設備備品費			千円
旅 費	国内出張	大阪・東京・北海道間 (11件)	365千円
	海外出張		千円
	外国招聘		千円
人 件 費	人件費		千円
	謝金		千円
事 業 推 進 費	消耗品	資料書籍購入費、文具・コピー代	150千円
	印刷製本		千円
	通信		千円
	会議		千円
	招聘外国人滞在費		千円
その他			千円
合 計			515千円

外部資金獲得・応募状況 (最近5年間のものまたは応募予定のもの)

外部資金の名称 と研究期間	研究課題名・ 研究代表者氏名	全研究期間の 総研究費 (単位：千円)	採 否	本申請との関連性
<b>日本学術振興 会科学研究補 助金、若手A (C)2013-2015</b>	<b>テキストの中の建築：</b>		<b>採 用</b>	<b>テキストで描写された庭園や風景の分析を行 うことで、本年度の共同研究のテーマとの連 関を図る。</b>